

各教科・領域における日比中スタイルを活用した探究学習

○十分な準備の基に、教科の本質を捉えた、生徒が思わず発言をし、意欲的に行動したくなる授業をつくる。

○教師が教え込むのではなく生徒が学びとる、教師の声よりも生徒の声の方が多授業をつくる。

1 強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定

(1) 導入の工夫

- ・「おや、なぜだろう?」「そんなこと考えたことなかった!？」と思わせる仕掛けを見せたり、演示や実験を行ったりする。
- ・「かっこいい!自分もやってみたい!」と思わせるイメージを提供する。
- ・ICT機器の積極的な活用を図るなど、生徒の興味関心を高める工夫を盛り込む。

(2) 課題設定(単元や本時を貫く問いの設定)

- ・生徒の「疑問」や「期待感」を膨らませる導入の後に、課題設定を行う。
- ・学習課題は、ねらいを達成するために設定した活動内容、作品作りとする(別紙「整理」を参照)。
- ・時事ネタやテレビ番組名等を利用しながら、生徒を惹き付けるキャッチーなタイトルを付ける。

2 協働学習(話し合い活動)の充実

思考を深める学び合いの場となるようにする。

各教科・領域の特性、学習課題に応じて、以下の(1)～(3)を使い分ける。

(1) 少人数班

(自己の意見を持たせた上で)、3～4人の少人数班による意見交流を行い、自己の考えを深めさせる。

(2) ホワイトボードの活用

少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現させる。

(3) 全体討議の実施(各教科・領域の特性、学習課題に応じて、以下の①～④方法を使い分ける。)

- ①班で思考したことを発表させる。
- ②班で出された考えのグルーピングやラベリングを行い、考えを深めさせる。
- ③班から出された考えに対する質疑応答を重ねながら全体討議を行い、考えを深めさせる。
- ④個人や班での思考を基に、「ロの字」の形(平場)での全体討議を行い、考えを深めさせる。

3 授業展開

(1) 「単元名」を書く。	・本時の学習の位置付けを常に意識させる。	
(2) 「ねらい」を書く	・学習指導要領や指導書などを参考として、的確な表現で表す。	
(3) 導入と課題設定	※上記1を参照	
思考を深める学び合い	(4) 展開 ※2(1)(2)を参照	・個人や少人数班による課題解決のための活動、作品作りを行わせる。 ・時間を十分に確保する。
	(5) 発表 ※2(3)を参照	・学習課題に対する解答、作品を発表させる。
(6) まとめ	・ねらいを基にして、生徒に評価を返ししながら、模範解答を示す。 ・「学習課題」に対する結果を確認する。	
(7) 振り返り	・己の変容を自覚するものとなるようにする。 ・「何がどこまで分かったか」「何が分かっていないのか」を自己評価させる。 ・学んだ事や思った事を書き残させ、学びの手応えや意義を感じさせる。	

※ 事前にシミュレーション授業を行い、授業内容を精査し、質を高める機会を設ける。